

八王子: 延喜16年(916年)に華嚴菩薩妙行という名僧が、現在の元八王子町城山に庵を建て修行、牛頭天王が顕れ八人の王子を祀るよう妙行に託した。そして深沢山上に牛頭八王子権現を創建。「八王子」という名の起こりになったという。後に深沢山には八王子城が築かれた。

【都立小宮公園】 (開園 昭和61年、面積 約25ha)

浅川北岸の加住南丘陵にあり、標高が約160mの丘陵地の公園。美しい雑木林に覆われ、小鳥の名の付いた園路が通っている。最高所はひよどり山と呼ばれ、雑木林とは対比的な草地広場。

弁天池: 天明年間の大かんばんの時、その悲惨な状態を見た八王子千人同心頭荻原氏が大谷の谷間を利用して掘った池だと、今でも、雑木林の奥にある崖中腹からの湧水が、林の間に小川を作り、弁天池に流れている。

【少林寺】 (曹洞宗金龍山)

本尊は釈迦如来。弘治元年(1555)北条氏照を開基に暁嫩桂巖を開山として創建。桂巖和尚は氏照の乳母の子と言われる。氏照が使用した鞍と鎧を寺宝として所蔵。創建当初は本堂、禅堂、開山堂など多くの伽藍を有していたが、度重なる火災によって焼失。現在の本堂は平成5年新築。

【都立滝山公園】 (開園 昭和61、面積 約26ha)

多摩川と秋川の合流点の南側に広がる加住丘陵にあり、都立滝山自然公園(661ha)の一部。

自然公園とは、優れた美しい自然の風景地を保護し、自然に親しみ、楽しむことができるように指定された公園。地域を指定する地域性の公園で国、所有地だけでなく民有地も含む。

滝山城跡 (国史跡): 永正18(1521)年に武蔵国守護代の大石定重が築いた山城。戦国時代にその名を馳せた城館の一つで、東京都に現存する城館としては、江戸城、八王子城と並び、規模の大きさ、縄張の巧妙さ、遺構の保存状態などを総合して全国区の知名度を誇る。比高30~50mの丘陵の複雑な自然地形を巧みに利用した城域は、東西南北約750m四方という巨大なもの。天正初年(1573)北条氏照が、八王子城を築きそこに移るまで、大石・北条の居城であった。